



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL
宮城県立こども病院

発行：地方独立行政法人 宮城県立こども病院

まほうのもり保育園、4月オープン!!

院長 今泉 益栄



2年前の2016年（平成28年）2月、衝撃的なブログ「保育園落ちた…」が話題になりました。児童待機問題の深刻さがクローズアップされ、事業所内保育所助成に向けて国の背中を後押しする形になりました。当院は2015年（平成27年）9月に第1回院内保育所検討会を開き、院内保育所の実現に動き出しました。それから2年半、漸く今年4月に職員のための院内保育所が運用を始めます。対象の園児は0歳児から就学前までのお子さんです。

現在こども病院には約600名の常勤職員が働いており、うち女性が7割を超えます。最も多い看護師さんは年齢が比較的若く、産休・育休をとる職員が多いことも特徴です。最近では女性の医師も増え、短時間勤務の体制整備、出産・育児後の復帰支援が職員の確保には大事な条件になっています。

保育園は病院プレイガーデンの南西側に立つ木造平屋の建物で、南向きの園庭は多くの木々に囲まれています。「まほうのまち」をコンセプトに造られたこども病院の院内保育所でこども達が緑の中で元気に遊んで欲しいとの願いを込めて「まほうのもり保育園」と名付けられました。

仙台市内の主な病院では既に院内保育所の整っているところが多く、当院の状況はやや出遅れ感も否めません。特に病気のこども達と家族を支援するこども病院であればこそ、子育て職員へのサポートが形になる意義は大きいと考えています。「まほうのもり保育園」が、産休・育休取得後に職場復帰を目指す職員の働きやすい環境の一助となることを期待しています。

病院理念

- ・私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- ・私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

基本方針

1. チーム医療・成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
2. こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
3. 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
4. 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
5. こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
6. 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
7. 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
8. 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

Contents

各診療科アピールポイント	2
拓桃園紹介	3
部門紹介	3
地域医療連携室だより	4
林理事長の10年を振り返って	5
ボランティア紹介	6
行事予定	6
編集後記	6



リウマチ・感染症科

科長 梅林 宏明

当科は2015年からリウマチ科を標榜し、2017年4月より科名をリウマチ・感染症科に変更いたしました。2016年7月に小児感染症を専門にする桜井博毅が着任し、それぞれ分野で専門診療を行っています。(リウマチ性疾患)

2016年度は新たに65例がリウマチ性疾患(疑いを含む)としてご紹介いただきました。紹介数は毎年増加傾向にありますが(図1)、小児リウマチを専門に標榜している施設は東北では唯一であり、他県からもご紹介をいただきます。主な疾患は若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、高安動脈炎、シェーグレン症候群などですが、PFAPAなどの周期性発熱症候群、自己炎症性疾患も診療しております。

臨床試験にも積極的に参画し、昨年は小児治験ネットワークを介して、多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎患者に対する生物学的製剤(アバタセプト)の臨床試験を3例に対して、全身型若年性特発性関節炎患者に対する生物学的製剤(カナキマブ)の臨床試験も3例に施行しました。新たに小児全身性エリテマトーデスに対するペリムマブの臨床試験にも参加し、1例に対して治験薬投与を行いました。リウマチ性疾患における治療薬は、昨今の分子生物学の進歩により新規薬剤の出現が多く、治療成績が格段に向上しています。しかしながら、その中でも診断や治療に苦慮する症例も数多く、この領域の難しさを感じます。

リウマチ性疾患は診断時における感染症との鑑別、免疫抑制治療中に生じる感染症の管理など、感染症と密接に関わっていることが多く、その双方を専門的に管理することができる当科の役割は大きいものと考えられます。

〈感染症分野〉

各診療科から1年間で300件を超える感染症に関する症例のコンサルテーションを受け、適宜介入を行っています。また、ICT(Infection Control Team)やAST(Antimicrobial Stewardship Team)として、インフルエンザや水痘など院内で発生した感染症事案に対しての介入、各部署への環境ラウンド、抗菌薬適正使用に向けた介入など、感染管理業務にも従事しています。カルバペネム系抗菌薬の使用量を大幅に削減できたことも成果の一つです(図2)。

また、当院総合診療科で研修を行う後期研修医に対して、小児感染症診療についての講義を行い、細菌検査室での実習を行うなど、若手医師に対する教育的活動にも力を入れています。

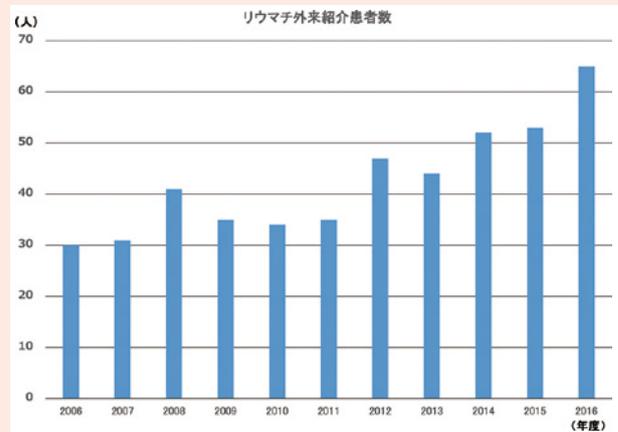


図1

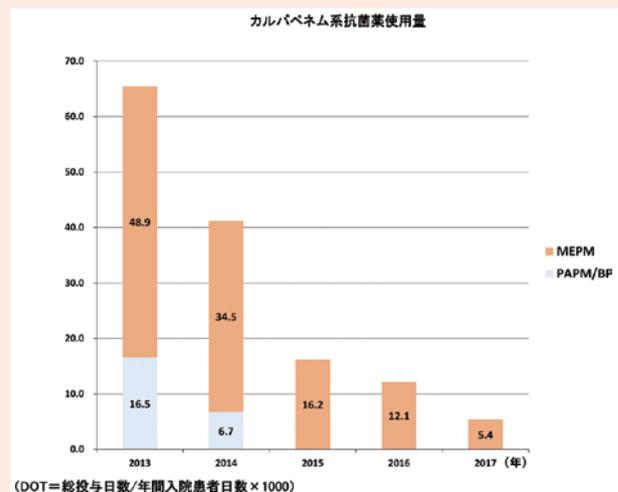


図2



左から、梅林科長、吉田医師、桜井医長

拓桃園紹介



作業療法 (OT) 部門について

リハビリテーション・発達支援部 主任作業療法士 (OT リーダー) 篠澤 俊

作業療法が実施されている作業療法室、感覚統合療法室は、拓桃館2階のリハビリテーション室の奥に位置しています。

作業療法では子ども達の発達特性や生活の中で出ている困り感（障害の特性や個々の状態によってみられるつまづきなど）に対し、療法室にあるさまざまな玩具や教材、遊具などを使いながら遊びを介して働きかけています。

作業療法で利用している部屋や遊具を写真で紹介させて頂きましたのでご覧ください。

拓桃館で生活している子ども達とは、食事でのスプーンや箸の練習、着替えや道具操作など手の使い方や姿勢、道具についてなど直接病棟で練習を行うこともあります。

療法室では姿勢や物、道具操作など身体機能に関わること以外にも、五感を使っでの適応、情緒、注意集中、頭の中でのイメージ作りなど、生活や学習、遊びの中で行われる様々な活動への準備や基礎的な力へ対する働きかけも行っております。

年齢や状態、個性等により発達の段階が上がっていくきっかけや困り感は様々です。それぞれの子ども達が持っている可能性をみつけてもらうために、遊びにチャレンジと一緒に活動しています。

皆様のご協力も頂きながら、子ども達の成長に対するお手伝いをさせて頂いております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



作業療法室 1



評価室



感覚統合療法室



教材・教具
(手作りもあります)



OTのシンボルツリー
(四季により冠が変わります)

部門紹介

医療安全推進室



医療安全推進室長 川名 信

医療安全推進室は医療の質の向上、安全確保に関わる様々な課題を検討する部署です。室長、医療安全管理者、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務職員などのメンバーでインシデントの収集や分析、防止策、医療の安全確保に関わる研修を行っています。また医療安全に関する情報の収集や連絡事項の伝達がスムーズに行われるように各部署にリスクマネージャーを配置しています。医療安全推進室はインシデントやアクシデントの報告先ではありますが、本来の目的はそのような報告をもとに原因や背景を分析することで事故を未然に防ぐことにあります。日常経験される一見重要ではないように思われるインシデントが潜在的に大きなリスクを抱えている場合もありますので、見過ごすことなく分析するようにしています。また医療の質の向上を図ることも医療安全推進室の重要な仕事です。これまでの慣習にとらわれず新しい観点で改善点を見つけ、職種や部署の壁を越えた協議の中から解決策を見つけていくようにしています。



前列左から佐藤看護師長、川名室長と室員の皆さん

地域医療連携室だより



● 緩和ケア研修会を開催いたしました ●

緩和ケアチーム
佐藤 篤 (血液腫瘍科)

平成 30 年 1 月 17 日、平成 29 年度第 2 回緩和ケア研修会を佐藤 律子先生にお越しいただき開催いたしました。佐藤先生は、神奈川県立こども医療センターにて現在母性病棟看護科長をお務め、家族支援専門看護師としてもご活躍しておられます。ご講演は「こどもを看取る家族に必要なケアと『わたぼうしの会』の取り組みから見えたこと」というタイトルで、約 1 時間にわたり周産期にこどもを亡くされたご家族へのケアについて、実例をもとに分かりやすく教えていただきました。冬の寒い時期にもかかわらず県外を含む院外の医療機関から 34 人、院内職員も含めると全体で 96 人と、大変多くの方にご参加いただきました。ご講演からは、周産期にこどもを亡くすることのつらさ、それを支えることがいかに大切なことか、そして支えるためのアプローチなど明日からの仕事に活かせる知識を学ぶことができました。この研修会を通して、ご参加いただいた皆様にグリーフケアの大切さが伝わったと思います。



神奈川県立こども医療センター
母性病棟看護科長 佐藤 律子 先生

地域医療研修会のご案内

臨床放射線病理カンファランス開催予定

- 第 44 回 平成 30 年 6 月 13 日 (水) 本館 1 階愛子ホール 18:00~19:00
- 第 45 回 平成 30 年 9 月 12 日 (水) 本館 1 階愛子ホール 18:00~19:00
- 第 46 回 平成 30 年 12 月 12 日 (水) 本館 1 階愛子ホール 18:00~19:00
- 第 47 回 平成 31 年 3 月 13 日 (水) 本館 1 階愛子ホール 18:00~19:00

標記の研修会以外にも、臨床遺伝カンファランス、感染対策研修会、安全対策研修会等の開催を予定しております。詳細が決まり次第、当院ホームページ <http://www.miyagi-children.or.jp/> に掲載しますとともに、メールアドレス登録済みの先生方へ電子メールでご案内いたします。登録医の先生でメールで当院の地域医療研修会の案内を希望される方は、E-mail: tiiki@miyagi-children.or.jp 宛お知らせ下さい。なお、PC メールのみに対応とさせていただきます。

地域医療連携室電話対応時間（短期入所関連含む）について

当院地域医療連携室での電話予約対応時間（短期入所関連含む）は、平成 29 年 1 月より、平日の 8:30~17:00 となっております。ご不便をおかけしますが、何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

宮城県立こども病院 地域医療連携室 室長 虻川 大樹

〒989-3126 仙台市青葉区落合四丁目 3 番 17 号

開室時間 月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）8:30～17:00

TEL: 022-391-5115 (直通) FAX: 022-391-5120 (直通)

E-mail: tiiki@miyagi-children.or.jp

林理事長の10年を振り返って



今年度で退任される林富理事長に宮城県立こども病院で過ごした10年間で写真を振り返っていただきました。

一年目

2008年4月1日
勤務開始。やる気に満ちていました。



二年目

2009年8月1日
初代ボランティアコーディネーターの寛浩子さん。ボランティア活動の基礎を築いて下さいました。



三年目

2011年3月12日
翌日からおよそ一か月毎日2回開催した震災対策委員会。



四年目

2011年11月19日
紀子様のご訪問。緊張しました。



五年目

2012年9月11日
元気で優しい福原愛ちゃんの慰問。4回来て下さいました。



六年目

2013年11月23日
開院10周年記念式典。五十嵐先生特別講演。



七年目

2014年4月28日
拓桃移転新築工事が始まりました。



八年目

2015年5月16日
青葉祭に参加させて頂きました。



九年目

2016年7月19日
夏祭り



十年目

2018年3月4日
開設間近の院内保育所



強く記憶に残るのは、1) 東日本大震災、2) 拓桃移転統合、3) 開院10周年記念式典、4) 電子カルテの導入、5) 包括外部監査受審、6) ボランティアさんへの感謝、7) 院内保育所設置などです。

病院経営、医療安全、人員確保等で四苦八苦の日々でしたが、良き仲間にも恵まれ充実した楽しい10年でした。感謝しています。

● ボランティア紹介 ●

拓桃館あそび支援



長沼 健人

私たちは毎週月曜日午後三時から四時半まで拓桃館あそび支援のボランティアを担当しています。

遊びの内容は曜日によって様々ですが、担当している月曜日はゲームの日となっています。活動に入るとまずはじめに、拓桃館三階たくとう広場でテレビゲームの準備をし、こども達を病棟に迎えにいきます。

未就学児と小学生の低学年のこどもは病棟から病棟外に出るのに見守りが必要な為、一緒に病棟から広場に向かいます。

広場に着くとゲームをする子と、その他の玩具で遊ぶこどもがいるためボランティアは、こども達に危険がないよう見守ります。時には、活動していくうちに顔と名前を覚えてくれた子が「一緒に遊ぼう!」と言ってくれることもあり、楽しく活動をしています。

他のボランティアに比べ時間は短いですが、こども達と共に楽しい時間を過ごす事ができ、とても有意義な活動になっております。



長沼 健人、馬場 洋子、金内 祐子

行事予定

- 3月14日(水) クリニクラウン訪問
(本館3階・外来)
- 3月19日(月) 第169回まほうの広場コンサート
(My G&P)
- 3月28日(水) むすび丸慰問
- 3月30日(金) 人形劇場「徹子のお家」
(拓桃館保育室・まほうの広場)
- 4月6日(金) 第170回まほうの広場コンサート
～荒川知子とファミリーアンサンブル～

編集後記

この冬、こども病院では4月の院内保育所開所に向けて、着々と工事が行われました。風の日も雨の日も雪の日も工事は休むことなく続けられ、3月には次第に保育所全体が確認できるようになりました。扇状の平屋建ての構造は、太陽の光がたくさん差し込むよう設計されており、実にこども病院らしい景観です。春には、こども達を迎え、新たな歴史が始まります。

一方でこの春、これまでこども病院の歴史を築いてくださった林理事長が退任となります。院長就任から10年。さまざまな苦難や課題にぶつかりながらも、笑顔を絶やさずこども病院を導いてくださった林理事長の10年の歴史を写真で振り返りご紹介させていただきます。

これまでの歴史と新たな歴史が交差する春が今年もやってきます。

(経営企画課 藤本 尚子)

地方独立行政法人

宮城県立こども病院

〒989-3126

宮城県仙台市青葉区落合四丁目3-17

TEL: 022-391-5111

FAX: 022-391-5118

<http://www.miyagi-children.or.jp/>

広報委員会

委員長	田中 高志	阿部 智	猪狩 菜緒
広報委員	虻川 大樹	岩崎かおり	大塚 有希
	乾 健彦	櫻井奈津子	佐藤 慎
	小畑 正子	武山 淳二	千葉 弥生
	鈴木 敏也	中村 一樹	濱町友里恵
	洞口 亮	原山千穂子	藤本 尚子
	町井 祐輔	三上 静香	真嶋 智彦
	横山麻依子		皆川 寛恵



日本医療機能評価機構
認定第 JC1934 号

当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用し、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC®認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。